

それにて
私には
立地が
なす
私には
私には

読者の
中
読者の

私には
私には
私には
私には

読書について
若い世代の人のために
いって、意見を述べた。けしこ
読むべきか

いって、意見を述べた。けしこ

私は普通
価値を
読む人は
文化

的教養の重要なことは充分に認められる

ありけれども、いける教養の
ための教養で

あり、これは
人間にある。

私の読書感
私には
私には

私には
私には
私には

私には
私には
私には

私には
私には
私には

青年の読書について
の取扱ひ

古典は歴史の純鍊を経る生き、

その歴史を、まことに價値のこぼるる

谷川敏三氏

本、
手書き

古典は

法下二書
ふたつこと
おたく、
中事

古典と

古典と
読むこと
よつこと、
の良石
好む
鑑識眼

鑑識眼
七喜子
こしん
びま

りよく 讀書家と云へんは 人々の間の ~~は~~ 古典

こそ 讀書の中心と云へるは 心まものひあり。

古典は時代と共に成長 ~~する~~ ありである。

それか何百年何十年の間 古典が今ほまじき ~~生~~ 生ず

て来たといふことは、それか ~~時代と共に~~ 時代の

時代に觸れた新しい意義、新しい解釈を提

て来たからである。その意味で 古典は第二

の自然である (谷川) 云々 不消し 云々 今ほある、

古典の 讀書の中心をなすは ~~あり~~ あり。か

ういへば 人々が多いのひあり。これは ~~あり~~ あり

樂に法め、
古典に法め、
は、ま、く、

そ、こ、の、内、で
は、
又、は、
い、い、古、典
の、場、合、に
あ、る、

3

し、は、
あ、る、程、ま、で、

い、ろ、の、意、味、
に、あ、い、た、
物、由、同、感、す、る、と、こ、ろ、で、あ、

る、
し、か、し、
他、の、面、
考、へ、る、と、
左、

典、は、一、般、に、難、解、な、も、の、ひ、あ、る、こ、と、を、知、ら、ね、は、

す、ら、な、い、
殊、に、日、本、や、東、洋、の、古、典、
に、志、に

と、は、多、く、の、場、合、に、は、か、へ、つ、て、西、洋、の、古、典、
に、親、

し、み、い、く、
透、か、に、難、解、な、こ、と、か、つ、考、へ、か、と、思、は、れ、

る、
其、れ、に、若、年、諸、君、
其、の、興、味、そ、

の、他、の、点、
若、い、
特、殊、な、専、門、を、

人、も、あ、る、と、ら、う、
例、へ、ば、繪、画、
音、楽、
演、劇、

の、
や、う、な、方、面、を、選、ぶ、人、は、
年、老、い、中、か、ら、の、熟、練、

藝、行

書

技、術、の

決、め、

まて
白

生七のたの
に働きた
あつた

清君

4

を要するし、
のたあらし、
実験や実習に、
多人分

の時間必要する
自然科学の
志ある人達
は

の時間の餘裕
のないもの
と思はれる
か、
わう

な場合にも
やはり古典
をこれ程
重要視しな
け

ればなりぬ
ものである
か、

執前
親しみん

しかし
私の見
るところは、
左つ

今日の如き、
新しい

思想
方面の古典
などの中は、
時代は

生き残ら
せる必要
のないもの
が、
意外に
多い

丁史的文
の傍に
かではある
まいか。
かやうな
立

この批判が、
行はれな
ければなら
ないと思ふ。

新資料

茶三

~~其~~ ~~は~~ ~~一~~ ~~種~~ ~~の~~ ~~文~~ ~~学~~ ~~上~~ ~~の~~ ~~古~~ ~~典~~ ~~の~~ ~~如~~ ~~き~~ ~~は~~ ~~、~~ ~~下~~ ~~れ~~ ~~を~~

精密に嚴格に讀まうとすれば、~~恐~~ ~~相~~ ~~者~~ ~~の~~ ~~面~~ ~~倒~~ ~~な~~

ことになる。また教養の爲めの讀み方がある

なり、その程度窮屈に考へないで、ほんやり意味

のゆるい程度でいいとしても、中には相者

うるさいものもあると思ふ。現に私の如く

は、中学四年の時の國語の時に土佐日記の

講讀をさせられた。お母さんや姉さんや妹さんを持して

全然無意義 ~~無~~ ~~味~~ ~~乾~~ ~~燥~~ ~~の~~ ~~ど~~ ~~ろ~~

の時間には必ず欠席するを常としてた。そのし

が ~~の~~ ~~修~~ ~~り~~ ~~の~~ ~~記~~ ~~念~~ ~~の~~ ~~記~~ ~~念~~ ~~の~~ ~~記~~ ~~念~~

平は「万葉集を治まうか」
 巨匠たる~~...~~を治まうか
 取てし~~...~~を治まうか
 左は

生を~~...~~
 い

とを~~...~~も忘れ得ない
 のである
 開くとこあるか

新制高等学校の国文科は、相当専門的な古典、

の断篇を課する
 と用いてゐるか、失敗に終らな

ければ幸いある
 左は

かやうな文学物の古典に比べれば、科学的古

典は、極めせやくしいけずである。しかし科

学的古典は、~~...~~必要にせまられ、限り、専

門といへども多くは読んで取らぬ
 のである

る。現に私の如きは、ニユートンの著述

下にはある「パリシ」
 のは真面目

の、最も名高い
 洗明
 左

古

新解らし
新しみにい

西洋の古典はともかく、日本や東洋

の古典は、~~多~~多くの時間を持たない青年諸

君には持たせられぬ。むしろ、~~多~~多くの時間を割く必

要ない。これはあるまじい。其の室、~~日~~の人は、~~遠~~あんな

ん年を取ると従って、自ら日本や東洋の古典に

興味を持つ可能性が相対にある。ゆゑあるから、

むしろ老人になりてから古典を讀むにけいどう

か、~~日~~と考へられる。

専ら

又は

また
おぼろげ

X X X X
これに對し

硬
特殊な

危険な

年若い諸君の中は、
狭い専門を深
び、狭い知識を
深め、既に入りし
志を立て、

ふ人々には、
各方面に氣を移さず、
専ら一途に
進め、
他種の
書

を讀まぬ、
このまゝでも
その専門に
進め、
突

かよいごと
思はれる。
たゞ危険な
のは、か

やうな人々の
頭が早く固定
することである。

頭の何れも
固定を
防ぎ、
方ちきして
道あるたう
が、

その一つとして
人間的な興味
に充て、
ある程度まで
時

間の餘裕を
みこは、
文学、
藝術を
楽しみとする

くらのこまは、
やつたか
かよか
らうと思
ふ。しか
し、
一層の
専門を

もつて
廣い範圍の
青年

張る

と云ふ事も、本当の専門に入る前に、

決定した



出来るわけ視野を

度くする。たぬに、専門以外のことごとの大切なることの一通り心得

このおくと、^の当然であらう。この方法である。

御へ作こまて、社会科学に志す諸君は、自然科学も

自然科学に志す諸君は、社会科学のいつて

自然科学に志す諸君は、社会科学のいつて

味のあること、思ふ。

視野を広げる場合には、急激に短かい

時日の間に、あれもさすも、行き当りあつたり

に読書するのりはなく、最初ある一つの方面

附
一
二

13

正選んのは、そのと學心つ、ある間にその必

學上、他の方面に擴張して一歩一歩進んて行く

といふ法を、心でみると思ふ。其の在典

は、私は有名な大傑作難解な本

執りて、いたぶらに苦心するも、あしる自分

の字力程なとよく考へて、出来るだけ平易な本

を徹底的に讀みこなし、自由自在に消化して

応用が出来たやうにする。この最も必要な

ことと思ふ。現に福沢諭吉は、社會大衆と指

導啓蒙する仕事に忙し、いほゆる名著と

その間、
上、
下

可
忙し
かつたので

世界的な

不当
 她辭を
 本右有也
 かのつは、
 馬鹿な
 大言不
 実

か大作とか稀せうれるもの ~~お~~ ~~多~~ ~~く~~ ~~使~~

讀んでいり ~~い~~。世界的大家の著書は福沢先生

り目にあれどぬ ~~の~~ ~~良~~ ~~なり~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ふ~~。先生

は多くは、^用学校の教科書 ~~の~~ ~~め~~ ~~と~~ ~~か~~ ~~辞~~ ~~書~~ ~~の~~

やうな ~~い~~ ~~は~~ ~~米~~ ~~の~~ ~~飯~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~つ~~ ~~た~~ ~~や~~ ~~う~~ ~~な~~、
 通俗的な一般的なものを讀みこなす

して、^し ~~れ~~ ~~か~~ ~~は~~ ~~あ~~ ~~れ~~ ~~け~~ ~~の~~ ~~識~~ ~~見~~ ~~を~~ ~~作~~ ~~り~~ ~~上~~ ~~げ~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~ん~~
 現代の青年が学ばねばならぬ重要な見識を ~~点~~ ~~を~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~せ~~ ~~る~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~ふ~~。

~~は~~ ~~あ~~ ~~れ~~ ~~は~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~つ~~ ~~て~~ ~~私~~ ~~は~~ ~~難~~ ~~解~~ ~~な~~ ~~本~~ ~~を~~ ~~読~~ ~~む~~

~~な~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~ふ~~ ~~の~~ ~~て~~ ~~は~~ ~~い~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~ま~~ ~~い~~ ~~も~~ ~~や~~ ~~い~~ ~~長~~ ~~い~~

此には特に社会科学の方面の著書に ~~あ~~

~~あ~~ ~~ら~~ ~~は~~ ~~選~~ ~~ぶ~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~ほ~~ ~~い~~ ~~め~~ ~~か~~ ~~り~~ ~~あ~~ ~~ま~~ ~~り~~ ~~高~~ ~~な~~ ~~の~~ ~~理~~

~~と~~ ~~は~~ ~~大~~ ~~同~~ ~~対~~ ~~し~~

そりどころか、

何々の事実の中に
ついてよく解

専断があるが、おれもどろかと思ひ、

若い人々には免角

活字は指端をさす

何ん

「概論」

「学史」といった、

手ぬり早いもの

また

~~一冊~~ 一冊

理解させたいところは、

また

他の「概論」によって

了解しよう

概論

かやうに

は事實不可知なりと

著書はうを

かやうに

~~概論~~

これは

非常な難題に拙考であるは、どうか、

学問をする行き方ではないかと思ふ。

先づ何々の事実

から 実証的に

一般的結論に

到着するの、

常道である。

たまたま

特殊を扱いて

偏った

何となく
さういふ
しつかり
た書物
を

15

簡単な歴史や、新しい物語、解説など、拙考や研究も
知ったついでに、なほ危険なことはない

天才

清

此の例を解いた後

ニュートン~~の~~の代数学の申ではある。これ

私は沢山の例を欲する。ちよちよ、科学を

学ぶに 数例より 例の方をとりて用ひ

から "For in learning the Sciences, Examples are of more use than precepts."

私は科学—自然科にせよ 社会科にせよ—を

学ぶには、はじめからあまり高次の程迄や

この書は、
は、この書は、
は、この書は、

この書は、
は、この書は、
は、この書は、

この書は、
は、この書は、
は、この書は、

17

青年諸君の向ふべき一紙

持論に一方的な理論は、
偏したるものは

論を、つめこむのは、禁物
かたと思ふ。また、いろいろい

その事実を覚えること、最初の向題である

思ふ。ほじめにいろいろの事実を覚えること、
次ぎ

これを科学的に整理して行く。
批判的整理

取りあつかひ、
思ふ。かたと思ふ。かたと思ふ。

政治、経済、文化、科学
思想、
史、
史、
史、

字彙に、
私に、
私に、
私に、

こと、
必、
必、
必、

文、
書、
書、
書、

言語、
に、
に、
に、

あつた専ら家向きでない
の良書の